[EXAMPP版] 監視モニター IV

機能追加

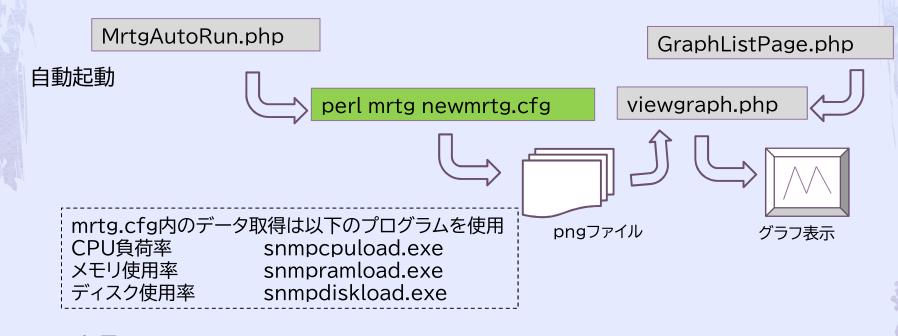
リソースグラフ機能 プロットグラフ機能

リソースグラフ機能概要と処置

1. 概要

リソースグラフの動作プログラム

perl mrtg SNMPで、CPU,RAM,DISKのデータを取得する GraphListPage.php 随時グラフを表示するためメニューから起動する



2. 処置

メニュー「リソースグラフ」で対象ホストを選択し、「グラフ作成」をクリックします グラフは最大36時間分のデータを扱います

リソースグラフ機能概要と処置

- 2. グラフ操作
 - 2.1 グラフを作成登録する メニュー「リソースグラフ」選択、グラフ未登録のホストを選択、「グラフ登録」をクリック

図 2.1.1 グラフ登録



MRTGグラフデータの起動間隔は、メニュー「管理情報」の監視間隔(秒)で変更可能

図 2.1.2 起動間隔



注:監視間隔の値の1/2は、Core Refreshの値になる

リソースグラフ機能概要と処置

2.2 グラフを表示、メール添付する メニュー「リソースグラフ」選択、表示/メール添付するホストを選択、「グラフ表示/メール添付」をクリック

図 2.2.1 グラフ表示



図 2.2.1 MRTGグラフ

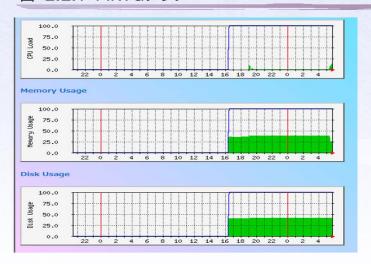
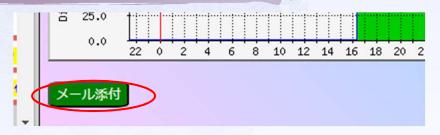


図 2.2.2 MRTGグラフメール送信

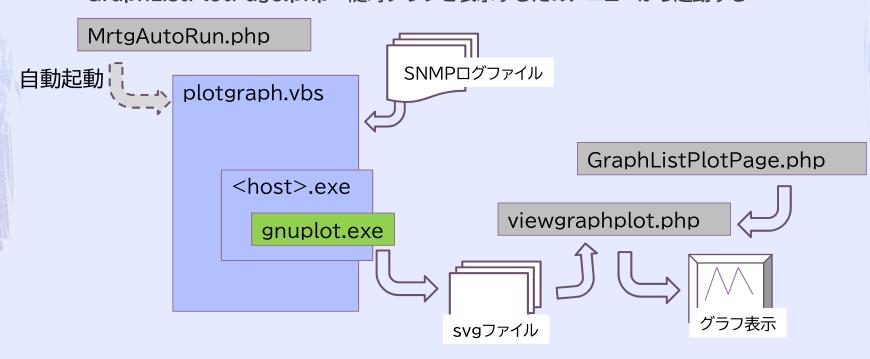


メールに画像を添付して送信する 但し、ホスト情報のメールが「自動送信」であること

プロットグラフ機能概要と処置

1. 概要

GnuPlotグラフの動作プログラム plotgraph.vbs SNMPログからCPU,RAM,DISKのデータを取得する GraphListPlotPage.php 随時グラフを表示するためメニューから起動する



2. 処置

メニュー「プロットグラフ」で対象ホストを選択し、「グラフ作成」をクリックします グラフは最大24時間分のデータを扱います

プロットグラフ機能概要と処置

2. グラフ操作

2.1 グラフを表示、メール添付する メニュー「プロットグラフ」選択、表示/添付するホストを選択、「グラフ表示/メール添付」をクリック

図 2.1.1 プロットグラフ表示

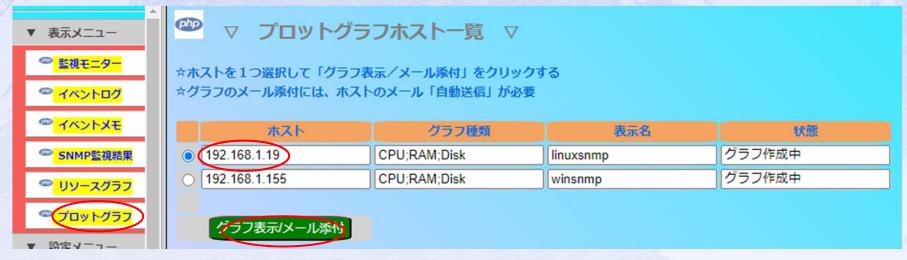
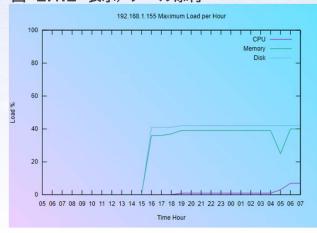


図 2.1.2 表示/メール添付



メール添付する場合は、「メール添付」をクリック

プロットグラフ機能概要と処置

3. その他

```
「gnuplot 実行時の引数」
 ghost="192.168.1.155"
「gnuplot文」
set title ghost." Maximum Load per Hour"
set xlabel "Time Hour"
set ylabel "Load %"
set yrange [0:100]
set size 1, 0.9
set terminal svg
set output path.ghost.".svg"
plot path.ghost.".ok" using 2:xticlabels(1) with lines title "CPU",
    path.ghost.".ok" using 3 with lines title "Memory",
    path.ghost.".ok" using 4 with lines title "Disk"
unset output
quit
```